

5.1.1.2 市街化区域と市街化調整区域

足立区では、区の全域が都市計画区域として指定されており、さらに市街地として積極的に開発・整備する区域である市街化区域と、市街化を抑制すべき区域である市街化調整区域に区分されている(図 5-4 参照)。市街化調整区域は、区全体の約 1 割を占め、荒川、隅田川、中川の主要河川とその河川敷が属している。

市街化区域および市街化調整区域の緑被状況を表 5-3 に示す。

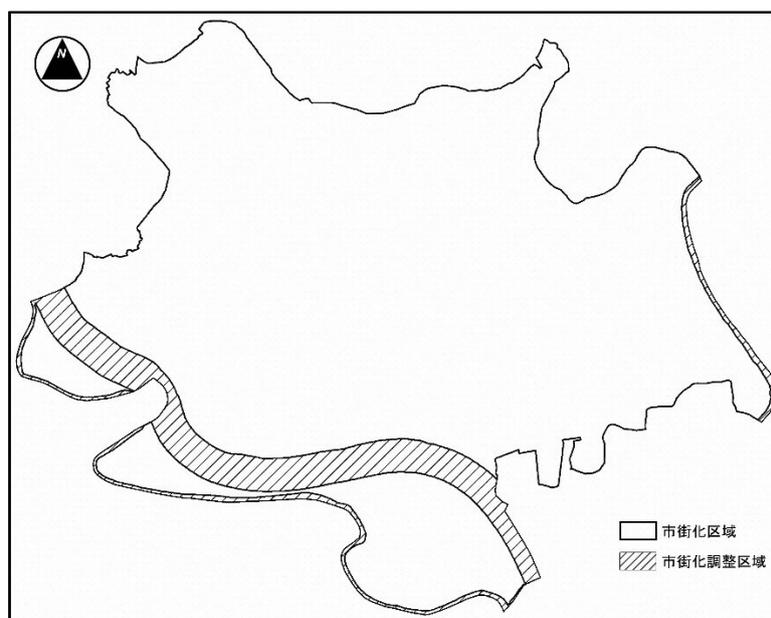


図 5-4 市街化区域・市街化調整区域

表 5-3 市街化区域・市街化調整区域の緑被状況

区分	敷地面積 (構成比)	緑被地				計	裸地		水面	緑被地+公園 空地+水面 (みどり率)
		樹木被覆地	草地	農地	公園空地					
市街化区域	4,810.00	492.29	179.84	56.19	728.32	82.35	133.01	34.88	82.35	
	90.3	10.2	3.7	1.2	15.1	1.7	2.8	0.7	17.6	
市街化調整区域	515.00	9.89	171.20	0.00	181.09	18.99	19.82	241.53	18.99	
	9.7	1.9	33.2	0.0	35.1	3.6	3.8	46.9	85.7	
区全域	5,325.00	502.18	351.04	56.19	909.41	101.34	152.83	276.41	101.34	
	100	9.4	6.6	1.1	17.1	1.9	2.9	5.2	24.2	

市街化区域の緑被率は 15.1%と、区全体の 17.1%と比較すると 2.0 ポイント少なく、樹木被覆地率は 10.2%と、区全体の 9.4%より 0.8 ポイント多い。

一方、市街化調整区域の緑被率は、河川敷の草地等が影響して 35.1%と、区全体の 17.1%と比較して約 2 倍となり、さらにみどり率では河川の水面も加わり、85.7%と大幅に高くなっている。

5. 調査結果

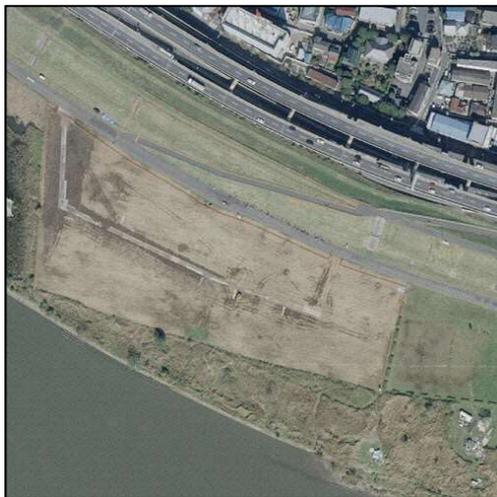
市街化区域・市街化調整区域の緑被状況について、前回調査と比較した結果を表5-4に示す。市街化区域では、緑被率が0.4ポイント減少している。一方、市街化調整区域では、緑被率が2.2ポイント増加している。

表5-4 市街化区域・市街化調整区域の緑被状況の経年変化

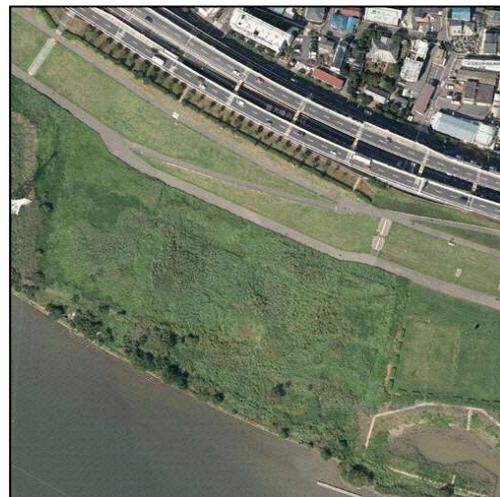
区分	調査年度	樹木被覆地		草地		農地		緑被地 計	
		面積(ha)	率(%)	面積(ha)	率(%)	面積(ha)	率(%)	面積(ha)	率(%)
市街化区域	H21	423.5	8.8	243.6	5.1	74.9	1.6	742.0	15.5
	H29	492.3	10.2	179.8	3.7	56.2	1.2	728.3	15.1
	増減	68.8	1.4	-63.7	-1.4	-18.7	-0.4	-13.7	-0.4
市街化調整区域	H21	4.5	0.9	163.9	32.1	0.0	0.0	168.4	33.0
	H29	9.9	1.9	171.2	33.2	0.0	0.0	181.1	35.2
	増減	5.4	1.0	7.3	1.1	0.0	0.0	12.7	2.2

これは、前回調査時に荒川の河川敷では大規模な改修工事が施工されており、植栽整備前で掘り返された土が露出している状態であったことが大きな要因であると考えられるとともに、樹木の成長による増加が見られる。

市街化調整区域における緑被地の増加事例を写真5-1に示す。



平成 21 年



平成 29 年

写真 5-1 市街化調整区域の経年変化事例(扇二丁目付近)

5.1.2 緑被地等の他区との比較

東京 23 区の緑被率と樹木被覆地率について、足立区と他区との比較を行った。足立区の緑被率および樹木被覆地率の東京 23 区内での順位の経年変化を表 5-5 に示す*。

東京 23 区別の緑被率の比較を図 5-5 に示す。東京 23 区別では、足立区の緑被率は 23 区中 14 位であり、前回調査より順位を下げる結果となった。

表 5-5 東京 23 区における緑被率と樹木被覆地率の経年変化

	緑被率(%)			樹木被覆地率(%)		
	H21	H29	増減	H21	H29	増減
足立区	17.1	17.1	0.0	8.0	9.4	1.4
順位	12	14	-2	18	19	-1

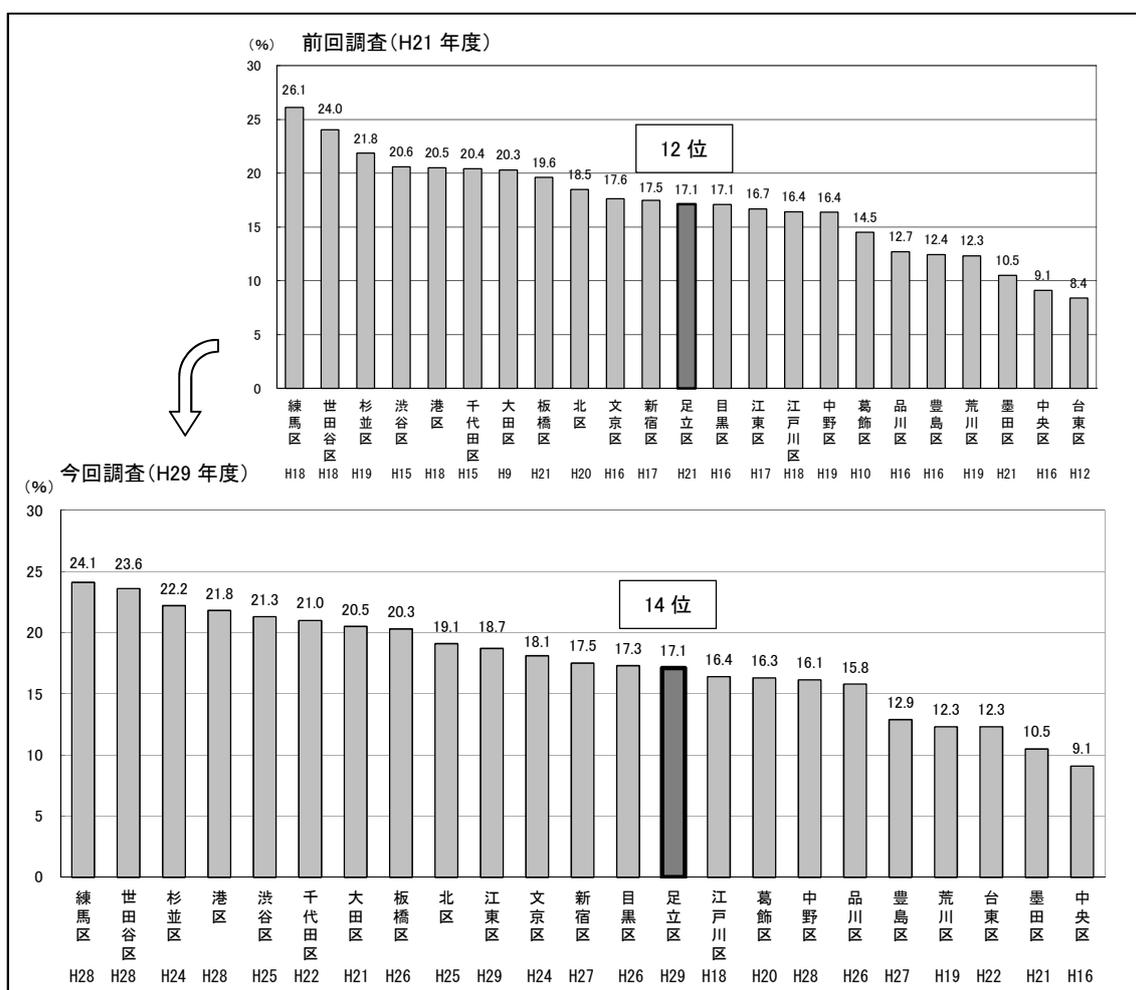


図 5-5 東京 23 区における緑被率の比較

*参考にした各区の調査結果には、「緑被率標準調査マニュアル」(昭和 63 年、東京都環境保全局)の水準 I (最小面積単位 1 m²程度)および水準 II (最小面積単位 10 m²程度)の結果が混在している。

5. 調査結果

東京 23 区別の樹木被覆地率の比較を図 5-6 に示す。足立区の樹木被覆地率は 19 位であり、緑被率より更に低い順位となった。また緑被率同様、前回調査より順位が下がった。

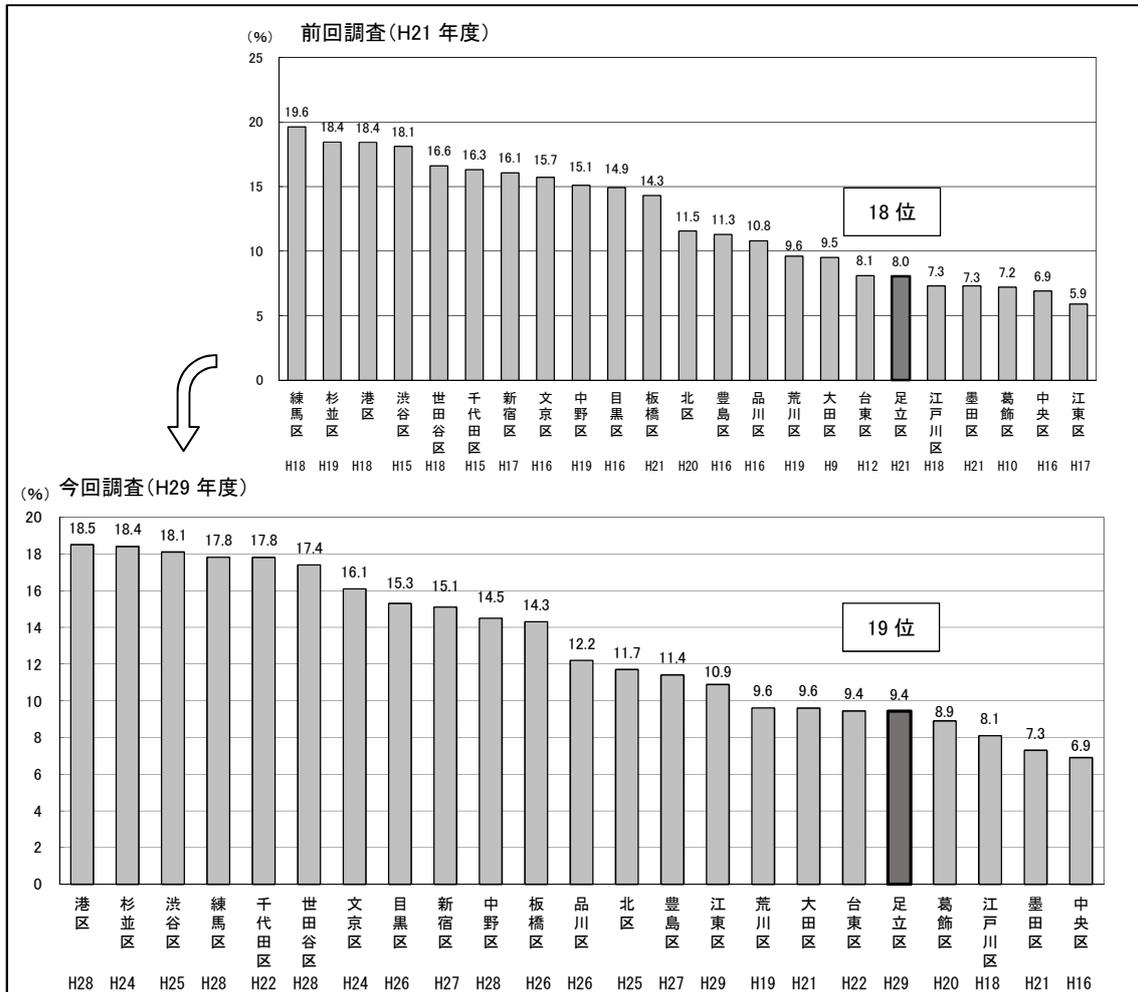
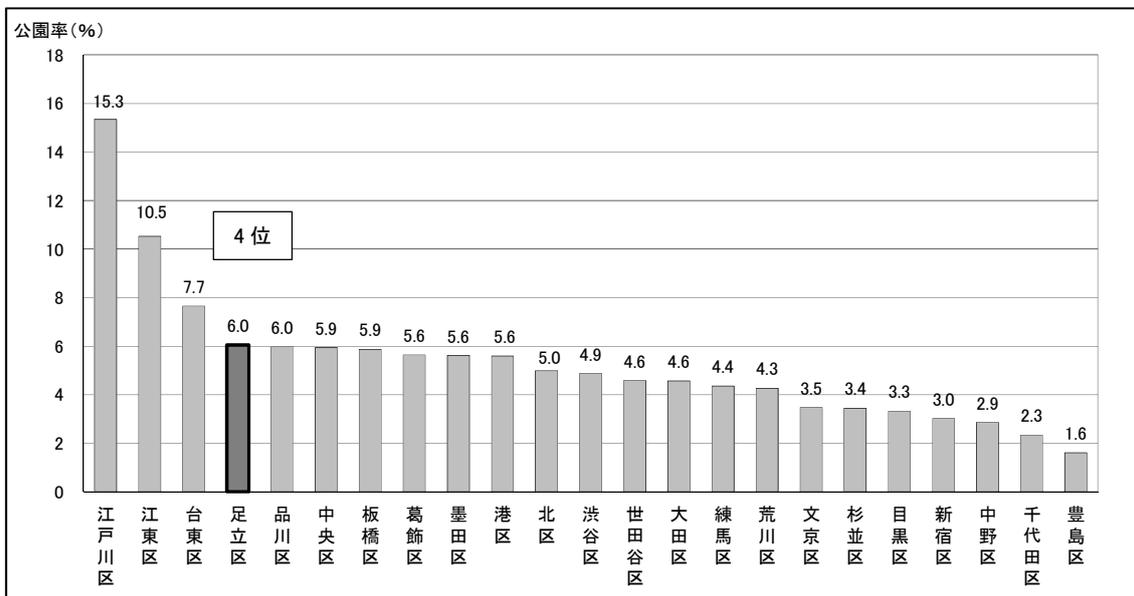


図 5-6 東京 23 区における樹木被覆地率の比較

また、足立区の市街化区域(図 5-4(27 ページ)参照)の数値を東京都 23 区における緑被率および樹木被覆地率の順位にあてはめると、緑被率(15.1%)は 18 位となり 4 ランクダウン、樹木被覆地率(10.2%)は 16 位となり 3 ランクアップとなった。

一方、23 区の公園率の比較を図 5-7 に示す。

足立区の公園率(6.0%)は 23 区中第4位と上位であったが、僅差である区が多く、23 区内では比較的平均的な数値と考えられる。



参考資料: 東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表(平成 29 年 4 月 1 日現在) (『公園調書』から抜粋)

※江戸川区、江東区、台東区、品川区、中央区、港区には、海上公園が含まれている。

図 5-7 公園率の 23 区比較

5.1.3 都市構造区分からみた公有地・私有地の割合

(1) 区全体の都市構造区分の現況

区内の都市構造区分の構成を表 5-6 と図 5-8 に示す。なお、本区分は「足立区都市計画図1(用途地域等)」(平成 29 年 4 月現在)をもとに独自に分類したものであり、詳細については、資料編(資 3 ページ)に記載する。

全体をみると、公有地が 25.5%、私有地が 74.5%となっており、公有地・私有地の比率はおよそ1:3の割合である。また、住居等混在系市街地、住居系市街地(中高層)、住居系市街地(低高層)を合わせると、全体の 66.7%を占めている。公共施設の中で最も高い割合を示したのは道路用地(5.9%)、次いで河川・水路(5.5%)、公園緑地(4.8%)である。

表 5-6 都市構造区分の構成

公・民	都市構造区分	面積 (ha)	比率 (%)
公有地	公園緑地*	254.90	4.8
	学校用地(区立)	113.70	2.1
	公共施設用地(区立)	52.00	1.0
	公共施設用地(国・都)	82.00	1.5
	道路用地	313.50	5.9
	河川敷	247.30	4.6
	河川・水路	294.00	5.5
	計	1,357.40	25.5
私有地	鉄道用地	66.20	1.2
	大規模施設用地	96.90	1.8
	寺社・屋敷林	71.50	1.3
	住居系市街地(低層)	304.90	5.7
	住居系市街地(中高層)	1,027.30	19.3
	住居等混在系市街地	2,220.10	41.7
	商業・業務系市街地	67.40	1.3
	工業系市街地	113.30	2.1
	計	3,967.60	74.5
区全体	5,325.00	100.0	

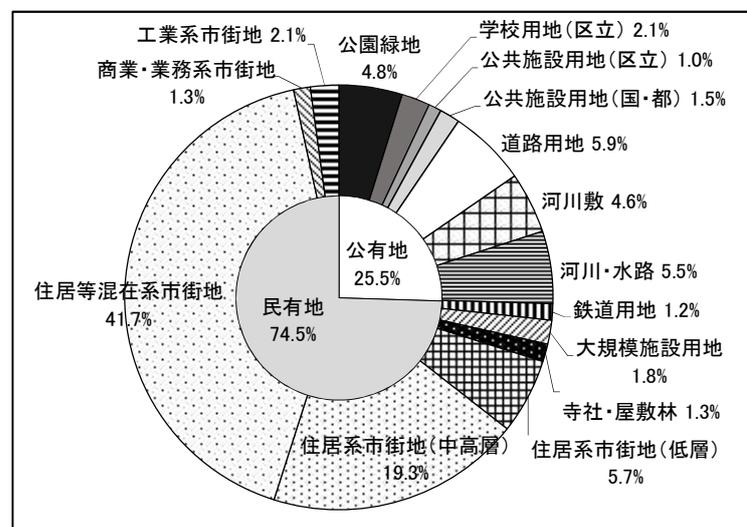


図 5-8 都市構造区分の構成

(2) 緑被等面積と緑被率

都市構造区別の緑被等面積と緑被率を表 5-7 に、緑被率比較を図 5-9 に示す。緑被率は、公有地 31.3%に対し、私有地は 12.2%と低く、大きな差があった。樹木被覆地率も、公有地 13.4%に対し、私有地は 8.1%であった。また、緑被率は河川敷(72.5%)、公園緑地(66.9%)、寺社・屋敷林(37.1%)の順で高かった。

表 5-7 都市構造区別の緑被等面積と緑被率

公・民	都市構造区分	敷地面積 (ha)	緑被地				裸地 (ha)	水面 (ha)	緑被率 (%)	樹木被覆 地率 (%)
			樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	農地 (ha)	計 (ha)				
公有地	公園緑地*	254.90	116.46	53.45	0.66	170.57	34.23	3.50	66.9	45.7
	学校用地(区立)	113.70	13.60	1.72	0.22	15.54	34.38	0.00	13.7	12.0
	公共施設用地(区立)	52.00	6.19	1.71	0.01	7.91	2.51	0.00	15.2	11.9
	公共施設用地(国・都)	82.00	9.23	6.07	0.04	15.34	9.90	0.00	18.7	11.3
	道路用地	313.50	23.10	3.20	0.07	26.37	0.28	0.44	8.4	7.4
	河川敷	247.30	9.49	169.73	0.00	179.22	19.15	4.64	72.5	3.8
	河川・水路	294.00	3.15	6.62	0.00	9.77	0.01	267.30	3.3	1.1
	計	1,357.40	181.22	242.50	1.00	424.72	100.46	275.88	31.3	13.4
私有地	鉄道用地	66.20	1.90	2.55	0.00	4.45	0.49	0.22	6.7	2.9
	大規模施設用地	96.90	7.46	2.90	0.02	10.38	1.73	0.00	10.7	7.7
	寺社・屋敷林	71.50	23.09	1.76	1.70	26.55	1.31	0.02	37.1	32.3
	住居系市街地(低層)	304.90	22.17	7.15	8.15	37.47	2.74	0.06	12.3	7.3
	住居系市街地(中高層)	1,027.30	98.14	41.23	22.70	162.07	20.26	0.05	15.8	9.6
	住居等混在系市街地	2,220.10	157.07	47.87	22.16	227.10	22.62	0.18	10.2	7.1
	商業・業務系市街地	67.40	2.00	0.38	0.01	2.39	0.25	0.00	3.5	3.0
	工業系市街地	113.30	9.13	4.70	0.45	14.28	2.97	0.00	12.6	8.1
	計	3,967.60	320.96	108.54	55.19	484.69	52.37	0.53	12.2	8.1
	区全体	5,325.00	502.18	351.04	56.19	909.41	152.83	276.41	17.1	9.4

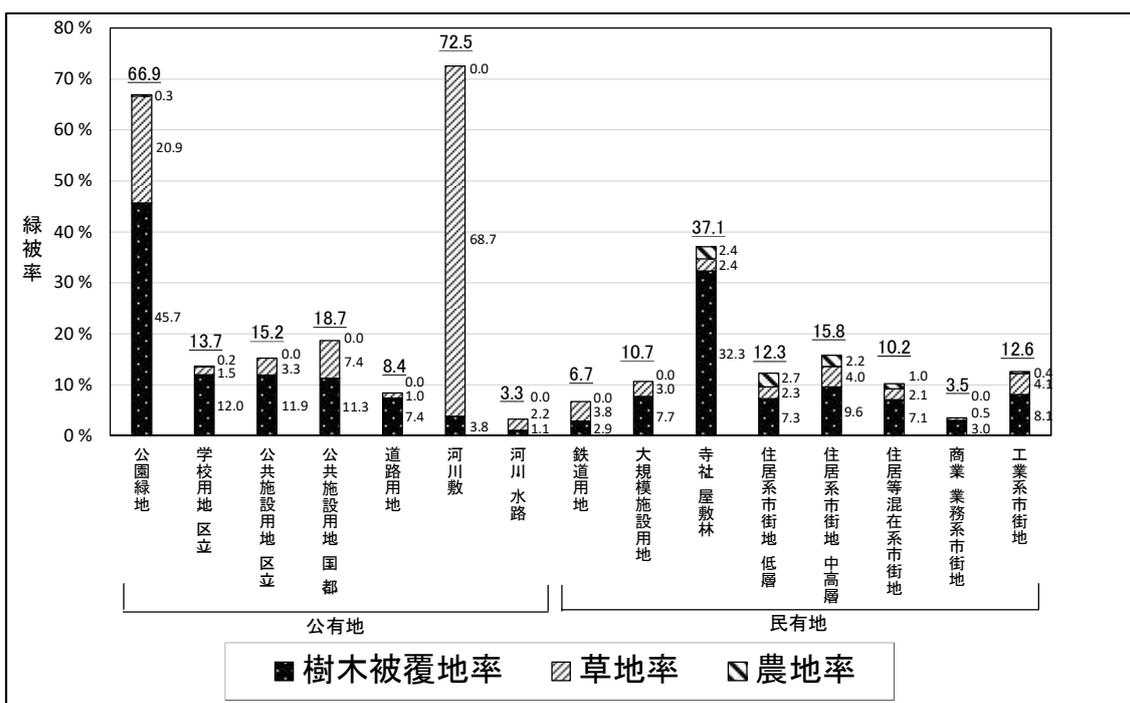


図 5-9 都市構造区別の緑被率比較

(3) 樹木被覆地・緑被地の構成比

都市構造区分別の樹木被覆地・緑被地の構成比を、表 5-8、図 5-10、11 に示す。

公民で比較すると、樹木被覆地の構成比では、公有地 36.1%・民有地 63.9%となり民有地の方が2倍近く多い割合となっているが、緑被地の構成比では、公有地 46.7%・民有地 53.3%とほぼ同じとなっている。

都市構造区分別では、樹木被覆地の構成比では住居等混在系市街地が 31.3%と公園緑地 23.2%を上回り最も多くを占めている。緑被地の構成比でも同様であった。

表 5-8 都市構造区分別の緑被地等の構成比

公・民	都市構造区分	樹木被覆地 (%)	草地 (%)	農地 (%)	緑被地 (%)
公有地	公園緑地*	23.2	15.2	1.2	18.8
	学校用地(区立)	2.7	0.5	0.4	1.7
	公共施設用地(区立)	1.2	0.5	0.0	0.9
	公共施設用地(国・都)	1.8	1.7	0.1	1.7
	道路用地	4.6	0.9	0.1	2.9
	河川敷	1.9	48.4	0.0	19.7
	河川・水路	0.6	1.9	0.0	1.1
	計	36.1	69.1	1.8	46.7
民有地	鉄道用地	0.4	0.7	0.0	0.5
	大規模施設用地	1.5	0.8	0.0	1.1
	寺社・屋敷林	4.6	0.5	3.0	2.9
	住居系市街地(低層)	4.4	2.0	14.5	4.1
	住居系市街地(中高層)	19.5	11.7	40.4	17.8
	住居等混在系市街地	31.3	13.6	39.4	25.0
	商業・業務系市街地	0.4	0.1	0.0	0.3
	工業系市街地	1.8	1.3	0.8	1.6
	計	63.9	30.9	98.2	53.3
区全体		100.0	100.0	100.0	100.0

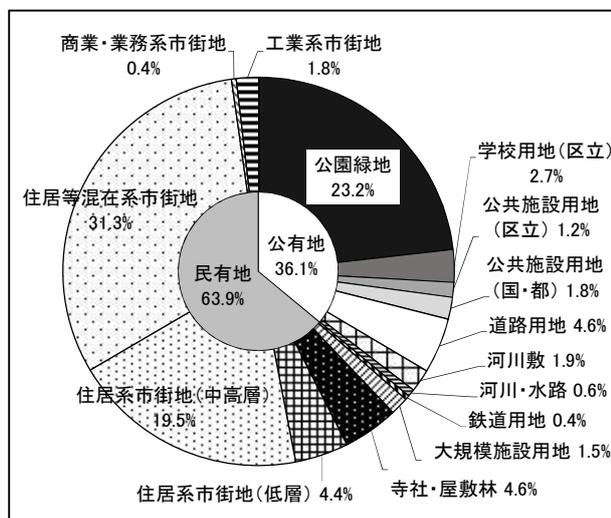


図 5-10 樹木被覆地の構成

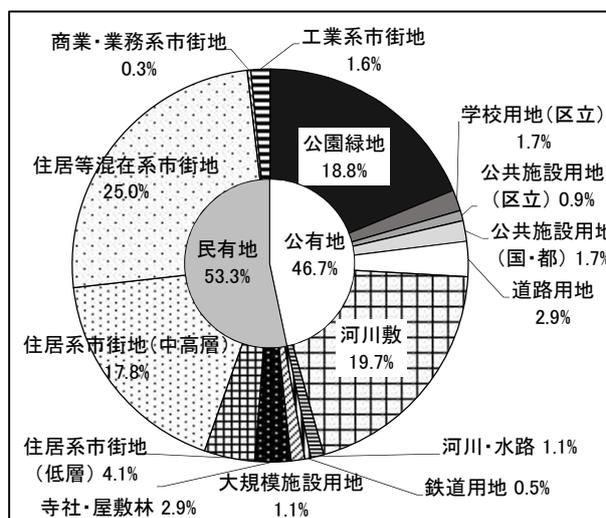


図 5-11 緑被地の構成

図 5-8 と図 5-10、図 5-11 を見比べると、区の面積の公有地・民有地の構成比率はおおよそ1:3の割合で圧倒的に民有地が大きいのに対し、樹木被覆地の構成比ではおおよそ2:3、緑被地の構成比ではおおよそ1:1と差が少なくなっている。

今後、区全体の樹木被覆地率および緑被率を増加させるためには、民有地の緑化をより推進する必要があると考えられる。

5.1.4 ブロック別の緑被

図 1-2(4 ページ)に示す5つの大ブロック別の緑被等の状況を表 5-9、図 5-12、5-13 に示す。

大ブロック別では、樹木被覆地率は1ブロックで 5.8%と区全体 9.4%と比較しても非常に低い結果となった。緑被率は、2ブロックで 20.1%と最も高く、次いで5ブロックが 17.6%となっており、また5ブロックは樹木被覆地・農地・公園が面積・率ともに最も高い数値であった。

表 5-9 大ブロック別の緑被状況

大ブロック	敷地面積 (構成比)	緑被地				水面	屋上緑化	公園
		樹木被覆地	草地	農地	計			
1ブロック	553.00	32.08	48.82	0.01	80.91	76.19	1.48	25.90
	10.4	5.8	8.8	0.0	14.6	13.8	0.3	4.7
2ブロック	1274.50	96.14	149.36	11.02	256.52	128.87	2.59	69.00
	23.9	7.5	11.7	0.9	20.1	10.1	0.2	5.40
3ブロック	812.00	85.92	37.77	3.45	127.14	26.18	1.45	52.94
	15.2	10.6	4.7	0.4	15.7	3.2	0.2	6.50
4ブロック	1093.20	105.76	45.64	13.82	165.22	27.98	0.93	47.58
	20.5	9.7	4.2	1.3	15.2	2.6	0.1	4.40
5ブロック	1592.30	182.28	69.45	27.89	279.62	17.19	1.53	126.63
	29.9	11.4	4.4	1.8	17.6	1.1	0.1	8.00
区全体	5325.00	502.18	351.04	56.19	909.41	276.41	7.98	322.05
	100.0	9.4	6.6	1.1	17.1	5.2	0.2	6.0

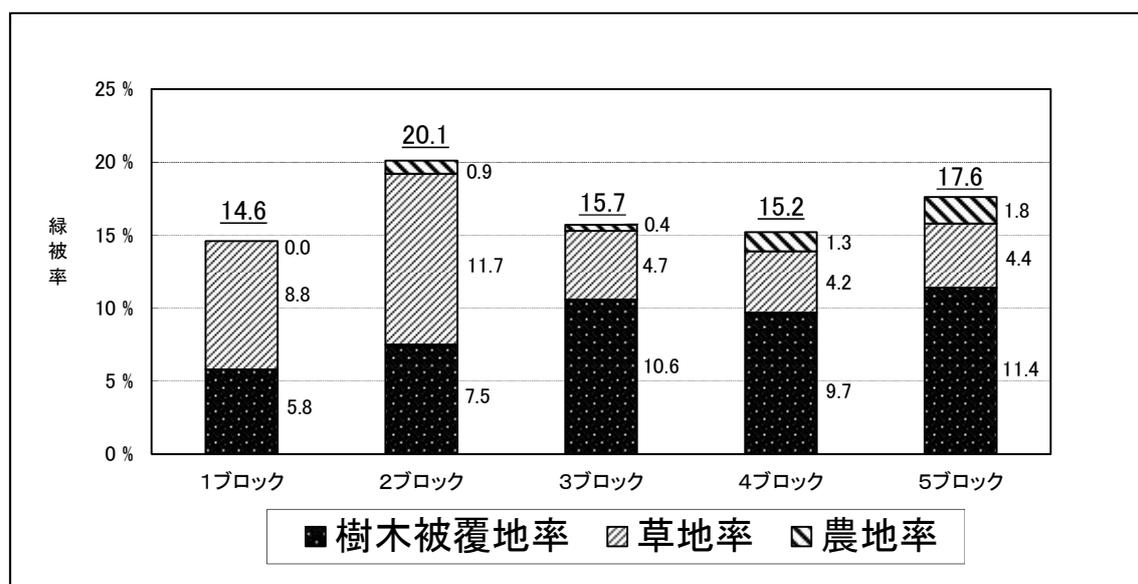


図 5-12 大ブロック別の緑被率の比較

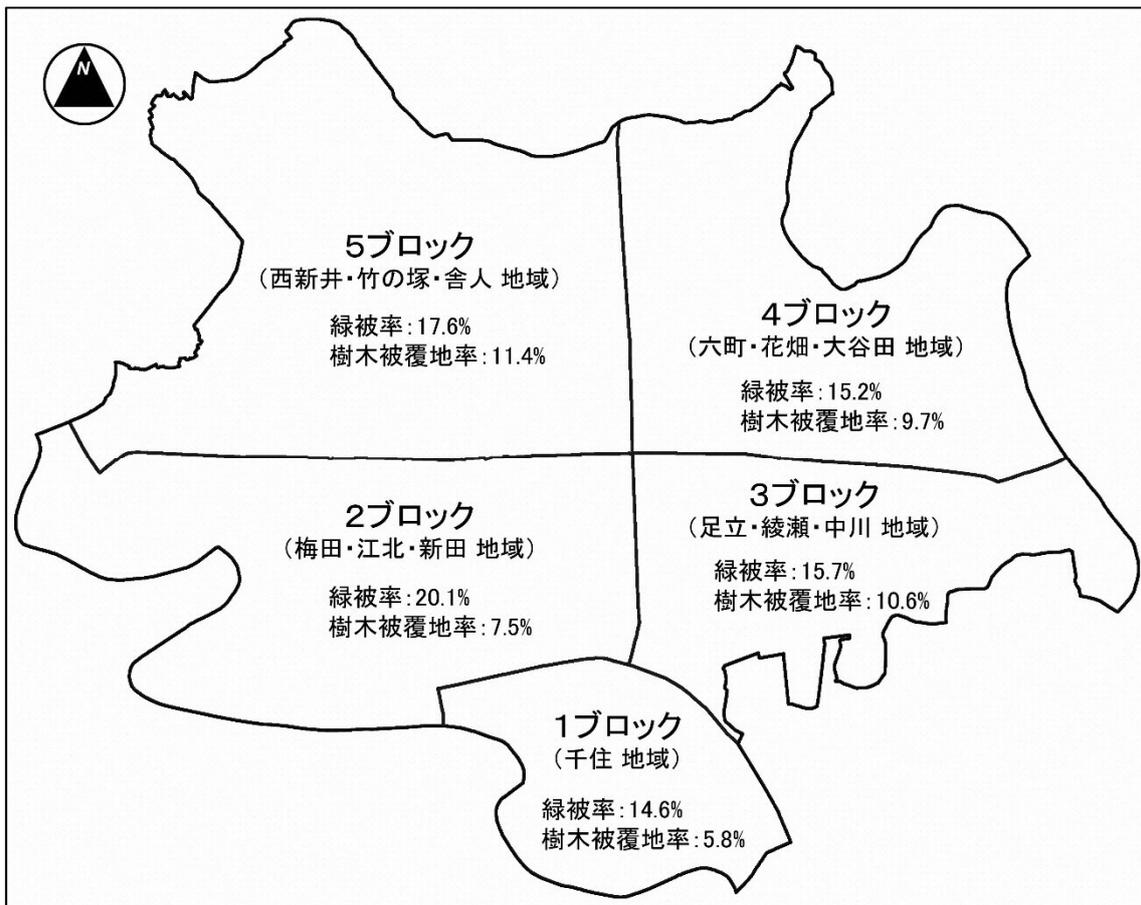


図 5-13 ブロック別の緑被分布図

大ブロック別の経年変化を表 5-10 に示す。

樹木被覆地率は全てのブロックで増加していた。緑被率は区全体では増減なしであったが、その内訳は2ブロックのみ増加でその他のブロックでは減少していた。また、農地率は農地のない1ブロックを除く全てのブロックで減少していた。

表 5-10 大ブロック別の緑被率等経年変化

ブロック	樹木被覆地率(%)			草地率(%)			農地率(%)			緑被率(%)			みどり率(%)		
	H21	H29	増減	H21	H29	増減	H21	H29	増減	H21	H29	増減	H21	H29	増減
1ブロック	4.3	5.8	1.5	10.5	8.8	-1.7	0.0	0.0	0.0	14.8	14.6	-0.2	29.7	30.3	0.6
2ブロック	5.2	7.5	2.3	12.1	11.7	-0.4	1.1	0.9	-0.2	18.4	20.1	1.7	30.4	31.9	1.5
3ブロック	9.5	10.6	1.1	5.9	4.7	-1.2	0.6	0.4	-0.2	16.0	15.7	-0.3	21.2	20.9	-0.3
4ブロック	9.4	9.7	0.3	5.1	4.2	-0.9	1.8	1.3	-0.5	16.3	15.2	-1.1	20.2	19.0	-1.2
5ブロック	9.9	11.4	1.5	5.8	4.4	-1.4	2.3	1.8	-0.5	18.0	17.6	-0.4	21.6	21.1	-0.5
区全体	8.0	9.4	1.4	7.7	6.6	-1.1	1.4	1.1	-0.3	17.1	17.1	0.0	24.2	24.2	0.0

次に、図 1-2(4 ページ)で示す30の小ブロック別の緑被等の状況を表 5-11、図 5-14～5-16 に示す。

図 2-5 都市構造区分図(14 ページ)や図 5-17 公園施設配置図(41 ページ)を参照としながら結果をみると、小ブロック別では、緑被率は、荒川河川敷を多く含むブロックで高く、それ以外では都立中川公園を含む3-4ブロックが高い数値であった。樹木被覆地率では、公共集合住宅が多くある5-5ブロックが 14.4%と最も高く、過密住宅地である1-6ブロックが 4.5%と最も低かった。農地率では、5-8ブロックが 3.2%で最も高かった。公園率では、舎人公園の大部分を含む5-6地区が 13.4%と最も高く、一方で大ブロックでは同じ5ブロックである5-4ブロックが 1.6%、5-5ブロックが 2.4%ととても低い数値であった。

表 5-11 小ブロック別の緑被状況

小ブロック	敷地面積 (ha)					緑被率 (%)	水面率 (%)	屋上緑化率 (%)	公園率 (%)
		樹木被覆地率 (%)	草地率 (%)	農地率 (%)					
1-1	63.60	8.4	4.7	0.0	13.1	16.3	0.1	3.5	
1-2	125.10	6.1	7.5	0.0	13.6	17.5	0.3	3.6	
1-3	65.00	5.0	15.9	0.0	20.9	20.1	0.1	9.9	
1-4	101.20	5.9	9.0	0.0	14.9	10.4	0.5	4.4	
1-5	85.70	5.7	5.8	0.0	11.5	8.1	0.3	4.1	
1-6	112.40	4.5	10.7	0.0	15.2	12.0	0.2	4.3	
2-1	201.80	5.8	15.4	0.0	21.2	23.8	0.1	4.9	
2-2	146.90	7.2	20.9	0.0	28.1	20.1	0.5	11.1	
2-3	83.70	8.4	15.8	0.2	24.4	13.6	0.1	8.7	
2-4	317.90	8.9	13.1	2.2	24.2	6.4	0.1	5.2	
2-5	312.60	7.6	5.9	1.2	14.7	3.6	0.2	2.3	
2-6	147.00	6.7	8.6	0.0	15.3	5.8	0.3	6.5	
2-7	64.60	7.7	2.4	0.1	10.2	0.0	0.2	3.2	
3-1	93.00	5.1	12.2	0.0	17.3	11.8	0.1	6.1	
3-2	265.00	11.1	2.6	0.8	14.5	0.8	0.1	2.8	
3-3	341.00	10.8	2.1	0.3	13.2	1.0	0.3	7.6	
3-4	113.00	13.1	10.9	0.4	24.4	8.5	0.1	12.5	
4-1	291.00	10.3	3.5	1.5	15.3	4.6	0.1	4.0	
4-2	120.20	9.2	2.3	1.7	13.2	3.6	0.0	2.5	
4-3	82.60	7.7	4.1	1.5	13.3	0.0	0.0	1.3	
4-4	300.00	7.9	4.2	1.0	13.1	0.9	0.1	5.6	
4-5	299.40	11.6	5.6	1.0	18.2	2.5	0.1	5.0	
5-1	157.00	12.2	3.4	0.6	16.2	0.0	0.1	3.1	
5-2	143.00	10.9	2.1	1.5	14.5	0.0	0.4	5.1	
5-3	118.00	13.1	3.8	0.3	17.2	0.0	0.1	4.6	
5-4	122.60	12.6	1.9	1.8	16.3	0.0	0.1	1.6	
5-5	60.00	14.4	2.5	1.0	17.9	1.2	0.1	2.4	
5-6	370.90	11.1	6.3	1.9	19.3	1.7	0.0	13.4	
5-7	376.70	10.5	4.3	1.8	16.6	1.6	0.1	7.6	
5-8	244.10	11.3	5.4	3.2	19.9	1.8	0.1	11.2	
区全体	5325.00	9.4	6.6	1.1	17.1	5.2	0.1	6.0	

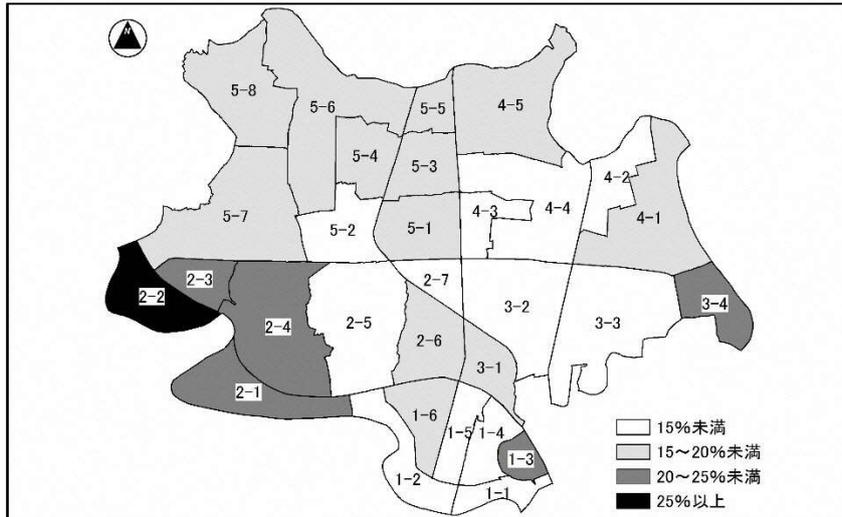


図 5-14 小ブロック別の緑被率分布図

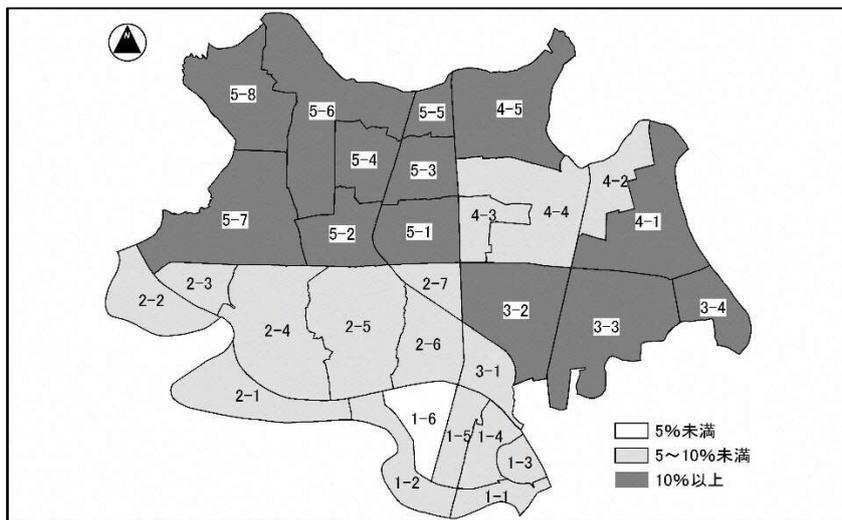


図 5-15 小ブロック別の樹木被覆地率分布図

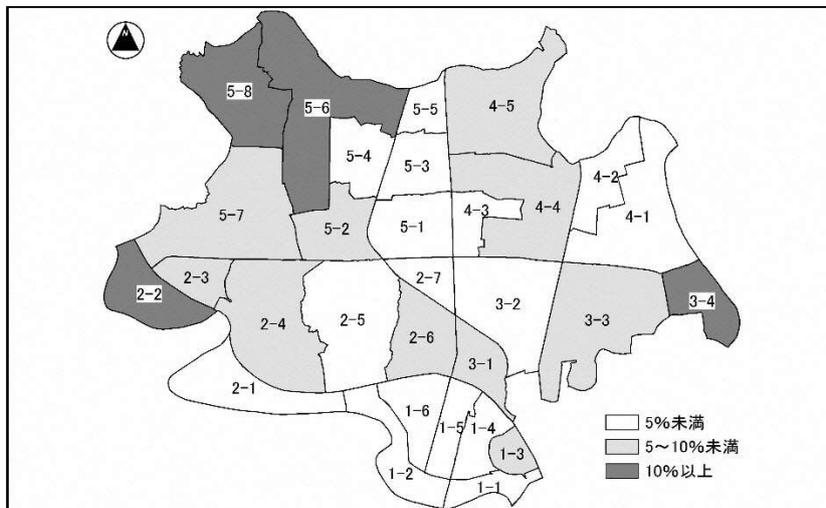


図 5-16 小ブロック別の公園率分布図

5.1.5 公園施設

公園施設全体および種類毎の緑被等の面積・率を表 5-12 に示す。また、公園施設の配置図を図 5-17(41 ページ)に示す。なお、区立緑地とは、荒川河川敷上のひろばのことである。

区全体の公園施設の面積割合は、区立公園が約5割、次いで都立公園が約3割という結果であった。

公園施設全体の樹木被覆地率は 36.6%であるが、なかでも区立公園は 50.7%、区立児童遊園は 49.3%と比較的高い数値であった。

表 5-12 公園施設の緑被状況

公園施設	箇所数	敷地面積 (構成比)	緑被地				計	裸地	水面
			樹木被覆地	草地	農地				
都立公園	3	933,352	342,741	308,177	1,203	652,121	55,971	25,710	
		28.5	36.7	33.1	0.1	69.9	6.0	2.8	
区立公園	336	1,543,607	782,958	215,880	4,288	1,003,126	268,599	9,284	
		47.1	50.7	14.0	0.3	65.0	17.4	0.6	
区立児童遊園	153	91,163	44,938	9,757	0	54,695	17,014	0	
		2.8	49.3	10.7	0.0	60.0	18.7	0.0	
区立緑地	8	694,394	24,686	480,931	0	505,617	129,330	4,684	
		21.2	3.6	69.2	0.0	72.8	18.6	0.7	
小計*	500	3,262,516	1,195,323	1,014,745	5,491	2,215,559	470,914	39,678	
		99.7	36.6	31.1	0.2	67.9	14.4	1.2	
プチテラス	97	11,312	4,436	539	1,080	6,055	555	0	
		0.3	39.2	4.8	9.5	53.5	4.9	0.0	
区全体	597	3,273,828	1,199,759	1,015,284	6,571	2,221,614	471,469	39,678	
		100.0	36.6	31.1	0.2	67.9	14.4	1.2	

*: 公表数値と計測数値との違いにより、集計の面積や比率が一致しない場合がある。
 今回の計測数値では、区立緑地の荒川左岸にある2箇所の桜づつみを区別して集計している。
 また、都市構造区分の「公園緑地」には、「区立緑地」および「区立舎人緑道公園」(区立公園)が含まれていない。

5. 調査結果

公園施設の緑被について、前回調査(平成 21 年度)との比較を表 5-13～5-15 に示す。

公園施設全体では、箇所数が 18 箇所増加し、公園面積も約 21ha 増加していた。緑被率は、1.1 ポイント、樹木被覆地率も 1.8 ポイント増加し、樹木の生長が影響していると考えられる。

都立公園では、箇所数は変わらないが敷地面積が増加している。緑被率が 4.2 ポイント減少している一方で、樹木被覆地率は 7.2 ポイント増加していた。

区立公園では、箇所数は 19 箇所、面積は約 5.6ha 増加していた。緑被率、樹木被覆地率、草地率、農地率はほぼ変化がなかった。

表 5-13 公園施設全体の緑被等の経年変化

公園全体	箇所数	敷地面積 (㎡)	緑被地		樹木被覆地		草地		農地	
			面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)
H21	480	3,047,871	2,037,143	66.8	1,059,934	34.8	972,450	31.8	4,757	0.2
H29	498	3,262,516	2,215,559	67.9	1,195,323	36.6	1,014,745	31.1	5,491	0.2
増減	18	214,645	178,416	1.1	135,389	1.8	42,295	-0.7	734	0.0

表 5-14 都立公園の緑被等の経年変化

都立公園	箇所数	敷地面積 (㎡)	緑被地		樹木被覆地		草地		農地	
			面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)
H21	3	892,385	661,205	74.1	263,597	29.5	396,294	44.5	1,314	0.1
H29	3	933,352	652,121	69.9	342,741	36.7	308,177	33.1	1,203	0.1
増減	0	40,967	-9,084	-4.2	79,144	7.2	-88,117	-11.4	-111	0.0

表 5-15 区立公園の緑被等の経年変化

区立公園	箇所数	敷地面積 (㎡)	緑被地		樹木被覆地		草地		農地	
			面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)
H21	317	1,487,141	952,670	64.1	747,742	50.3	201,484	13.6	3,443	0.2
H29	336	1,543,607	1,003,126	65.0	782,958	50.7	215,880	14.0	4,288	0.3
増減	19	56,466	50,456	0.9	35,216	0.4	14,396	0.4	845	0.1

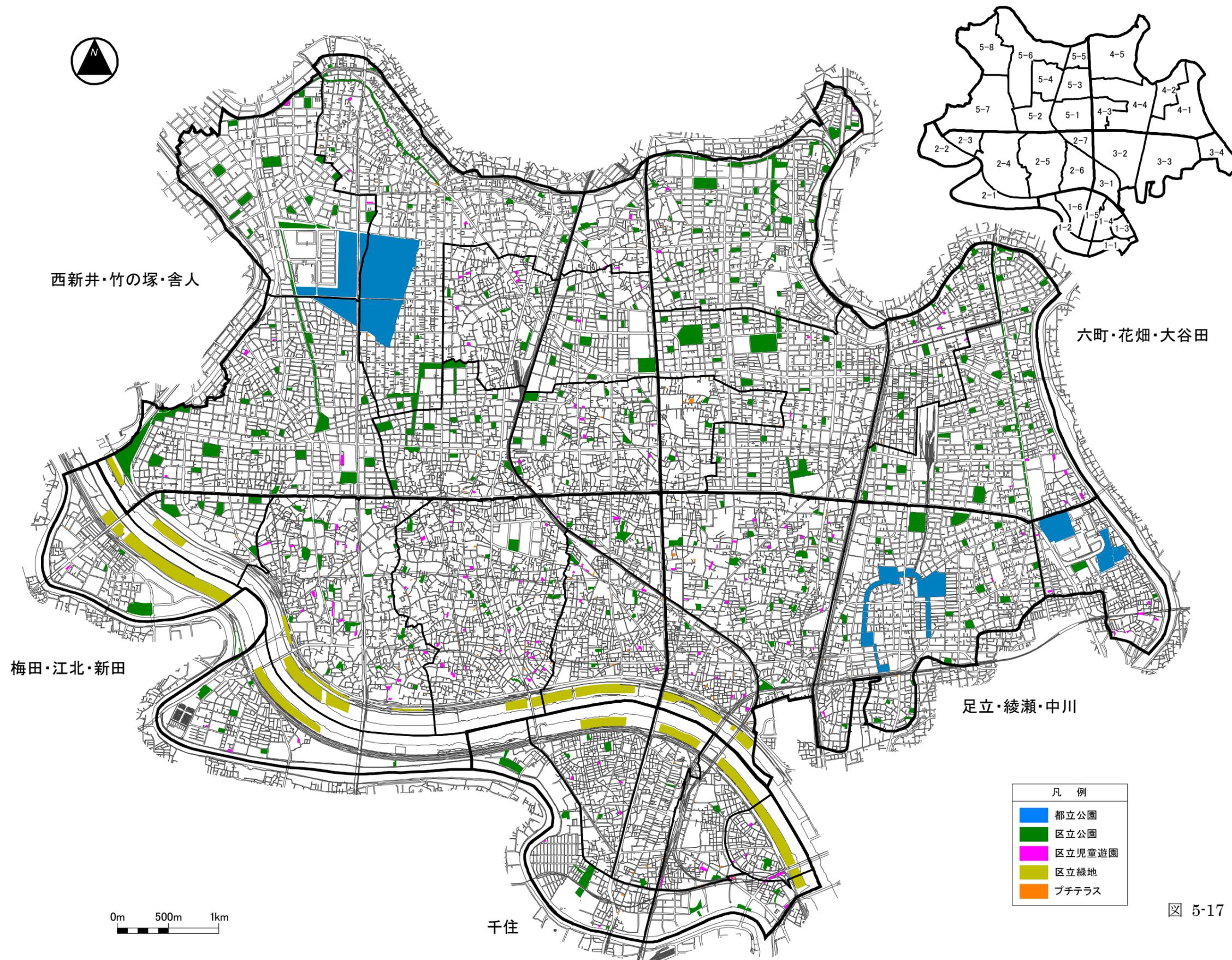


図 5-17 公園施設配置図

5.1.6 幹線道路

足立区の幹線道路について、区道(道路幅 6m 以上、総延長 188.37km)、都道(道路幅 15m 以上、総延長 48.35km)、国道(道路幅 15m 以上、総延長 7.60km)の緑被状況を表 5-16 と図 5-18 に示す。

幹線道路は交通を目的として整備されているため、緑被率は区道 11.0%、都道 6.8%、国道 7.0%と比較的低い値となっている。幹線道路全体では、緑被地率・樹木被覆地率ともに道路面積の1割に満たない結果となっている。

表 5-16 幹線道路における緑被状況

幹線道路	箇所数	総延長 (km)	敷地面積 (ha)	樹木被覆地		草地		緑被地	
				(ha)	(%)	(ha)	(%)	(ha)	(%)
区道	454	188.37	234.21	24.00	10.3	1.56	0.7	25.62	11.0
都道	11	48.35	125.30	7.53	6.0	0.99	0.8	8.52	6.8
国道	1	7.60	24.44	1.60	6.5	0.12	0.5	1.72	7.0
幹線道路全体	466	244.32	383.95	33.13	8.6	2.67	0.7	35.86	9.3

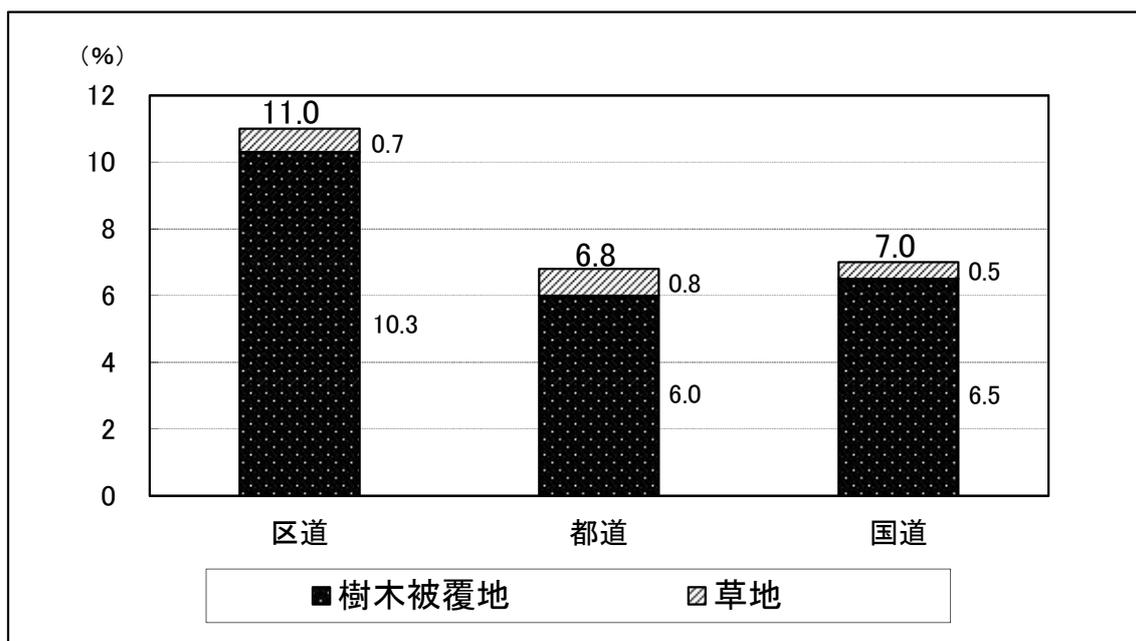


図 5-18 幹線道路の緑被等の割合

5. 調査結果

幹線道路の緑被率等について、前回調査と比較した結果を表 5-17 に示す。

区道・都道・国道ともに、草地率は減少しているが、樹木被覆地率は増加していた。結果、幹線道路全体で緑被率は 0.3 ポイント減少していたが、樹木被覆地率は 1.3 ポイント増加した。樹木被覆地率が増加していた箇所の事例を写真 5-2 に示す。

表 5-17 幹線道路の経年変化

幹線道路	総延長(km)			樹木被覆地率(%)			草地率(%)			緑被率(%)		
	H21	H29	増減	H21	H29	増減	H21	H29	増減	H21	H29	増減
区道	159.96	188.37	28.41	9.4	10.3	0.9	2.5	0.7	-1.8	11.9	11.0	-0.9
都道	46.90	48.35	1.45	4.8	6.0	1.2	1.9	0.8	-1.1	6.7	6.8	0.1
国道	7.60	7.60	0.00	3.7	6.5	2.8	1.8	0.5	-1.3	5.5	7.0	1.5
幹線道路全体	214.46	244.32	29.86	7.3	8.6	1.3	2.2	0.7	-1.5	9.6	9.3	-0.3

※前回平成 21 年度緑の実態調査とは集計方法が異なるため、報告書の数値が異なっている。



平成 21 年



平成 29 年

写真 5-2 幹線道路における樹木被覆地率増加の事例(国道 4 号)

5.1.7 公共施設

足立区には、区立および都立を合わせて、学校施設(117箇所)、庁舎等(18箇所)、社会教育施設(7箇所)、集会施設(46箇所)、保育園(113箇所)、老人・児童施設(71箇所)、その他公共施設(103箇所)の公共施設(計475箇所)が存在する(分布については図2-7(16ページ)参照)。

区内の公共施設における緑被状況を表5-18に示す。

公共施設全体の緑被率は15.3%で、区全体(17.1%)を下回っている。樹木被覆地率は11.5%で、区全体(9.4%)を上回っている。

学校施設の緑被率は13.9%と公共施設全体より低くなっている。一方、学校施設以外の公共施設の緑被率は17.2%と、公共施設全体を上回り、区全体の緑被率(17.1%)と同程度となっている。

表5-18 公共施設の緑被状況

上段:面積(m²)、下段:率(%)

公共施設	箇所数	敷地面積 (構成比)	緑被地			計
			樹木被覆地	草地	農地	
学校施設	117	1,415,946	164,848	29,297	2,458	196,603
		56.4	11.6	2.1	0.2	13.9
学校施設以外 (庁舎等、社会教育施設、集会施設、 保育園、老人・児童施設、その他公共施設)	358	1,095,696	123,493	64,406	282	188,181
		43.6	11.3	5.9	0.0	17.2
公共施設全体	475	2,511,642	288,341	93,703	2,740	384,784
		100.0	11.5	3.7	0.1	15.3

5. 調査結果

公共施設の緑被率等について、前回調査(H21)と比較した結果を表 5-19 に示す。

公共施設全体の緑被率は 1.6 ポイント増加し、樹木被覆地率、草地率のいずれも増加していた。

学校施設の緑被率は 1.7 ポイント増加し、樹木被覆地率、草地率ともに増加していた。

学校施設以外の公共施設の緑被率は -0.2 ポイントとやや減少し、樹木被覆率は -1.1 ポイント減少していた。

表 5-19 公共施設における緑被の経年変化

公共施設全体

年次	施設数	緑被率 (%)			計
		樹木被覆地率 (%)	草地率 (%)	農地率 (%)	
H21*	319	10.9	2.6	0.1	13.7
H29	475	11.5	3.7	0.1	15.3
増減	156	0.6	1.1	0.0	1.6

学校施設

年次	施設数	緑被率 (%)			計
		樹木被覆地率 (%)	草地率 (%)	農地率 (%)	
H21*	109	10.4	1.6	0.2	12.2
H29	117	11.6	2.1	0.2	13.9
増減	8	1.2	0.5	0.0	1.7

学校施設以外

年次	施設数	緑被率 (%)			計
		樹木被覆地率 (%)	草地率 (%)	農地率 (%)	
H21*	210	12.4	5.0	0.0	17.4
H29	358	11.3	5.9	0.0	17.2
増減	148	-1.1	0.9	0.0	-0.2

*: 前回調査(H21)の集計では、都立の公共施設が含まれていない。

5.1.8 公共集合住宅施設

足立区には、都営住宅(都住)143 箇所、UR 賃貸住宅(UR)24 箇所、東京都住宅供給公社住宅(公社)9 箇所、区営住宅(区住)11 箇所、合計 187 箇所の公共集合住宅施設がある(分布については図 2-7(16 ページ)参照)。

住宅施設全体および各住宅施設の緑被の状況を表 5-20 に示す。

公共集合住宅施設全体の敷地面積は、区全体の 5%弱を占め、その緑被率は 30%を超えており、区全体の緑被率等に大きく影響している。

公共集合住宅施設別にみると、施設数・敷地面積ともに大きな割合を占めている都住では、裸地率が他の施設よりやや高めであるが、これは敷地内にひろばが配置されている箇所が多数存在していることが影響していると考えられる。

URは草地率 16.0%、屋上緑化率 1.8%と、どちらも他の施設と比較して高い数値であった。

区住は樹木被覆地率・緑被率ともに施設全体より高い数値であったが、屋上緑化が一箇所も存在しなかった。

表 5-20 公共集合住宅施設別の緑被状況

公共集合住宅施設	施設数	敷地面積 (構成比)	緑被地				計	裸地	屋上緑化 (㎡)
			樹木被覆地	草地	農地				
			上段:面積(㎡)、下段:率(%)						
都住	143	1,718,434	332,363	144,384	568	477,315	104,001	110	
		66.1	19.3	8.5	0.0	27.8	6.1	0.0	
UR	24	729,604	147,392	116,389	0	263,781	28,498	13,169	
		28.1	20.2	16.0	0.0	36.2	3.9	1.8	
公社	9	103,504	19,823	9,782	0	29,605	4,029	149	
		4.0	19.2	9.4	0.0	28.6	3.9	0.1	
区住	11	46,300	12,591	2,198	0	14,789	856	0	
		1.8	27.2	4.7	0.0	31.9	1.8	0.0	
公共集合住宅 施設全体	187	2,597,842	512,169	272,753	568	785,490	137,384	13,428	
		100.0	19.7	10.5	0.0	30.2	5.3	0.5	

5. 調査結果

公共集合住宅施設の緑被について、前回調査と比較した結果を表 5-21、緑被率が増加した事例を写真 5-3 に示す。

公共集合住宅施設全体では、施設数では 29 施設、敷地面積では約 10ha が減少していた。緑被率は 30.2% で 0.6 ポイントの減少、一方で樹木被覆地率は 19.7% で 3.0 ポイント増加した。

また、施設別で見ると区住で緑被率が 2.7 ポイント増加し、公社で 3.5 ポイント減少していた。樹木被覆地率は、各施設で増加していた。

表 5-21 公共集合住宅施設の経年変化

公共集合住宅施設	施設数	敷地面積 (㎡)	緑被地		樹木被覆地		草地率 (%)	農地率 (%)	
			面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)			
都住	H21	164	1,798,184	510,710	28.4	296,412	16.5	11.9	0.0
	H29	143	1,718,434	477,315	27.8	332,363	19.3	8.5	0.0
	増減	-21	-79,750	-33,395	-0.6	35,951	2.8	-3.4	0.0
UR	H21	28	756,757	276,592	36.5	127,540	16.9	18.8	0.0
	H29	24	729,604	263,781	36.2	147,392	20.2	16.0	0.0
	増減	-4	-27,153	-12,811	-0.3	19,852	3.3	-2.8	0.0
公社	H21	10	103,716	33,285	32.1	15,738	15.2	16.8	0.0
	H29	9	103,504	29,605	28.6	19,823	19.2	9.4	0.0
	増減	-1	-212	-3,680	-3.5	4,085	4.0	-7.4	0.0
区住	H21	14	46,863	13,701	29.2	11,802	25.2	4.1	0.0
	H29	11	46,300	14,789	31.9	12,591	27.2	4.7	0.0
	増減	-3	-563	1,088	2.7	789	2.0	0.6	0.0
公共集合住宅施設全体	H21	216	2,705,520	834,288	30.8	451,492	16.7	13.9	0.0
	H29	187	2,597,842	785,490	30.2	512,169	19.7	10.5	0.0
	増減	-29	-107,678	-48,798	-0.6	60,677	3.0	-3.4	0.0



平成 21 年



平成 29 年

写真 5-3 公共集合住宅施設における緑被率増加の事例(都住神明二丁目アパート)

5.1.9 大規模開発地

近年、大規模な開発があった箇所の中で、事例として学校施設(東京電機大学)と集合住宅(新田地区)、戸建住宅地(扇一丁目)の3区域で前回調査時と比較した結果を、表 5-22 に示す。

学校施設(東京電機大学)の事例では、土地未利用時の草地が減ったため緑被率が大幅に減少したが、建物が建設されると共に樹木が植栽され、樹木被覆地が 11.1 ポイント増加した。

集合住宅地(新田地区)でも草地が減少しているが、樹木被覆地率が 21.5 ポイント増加し、緑被率も 16.4 ポイント増加した。

一方、戸建住宅地(扇一丁目)では、従前の農地と樹木がなくなり、各戸建住宅の敷地面積は区条例に規定している緑化基準対象外という要因もあり、緑被率・樹木被覆率ともに大幅に減少した。

大規模開発地の事例箇所の前回調査時との比較写真を写真 5-4～5-6 に示す。

表 5-22 大規模開発地の緑被変化状況

学校施設

(東京電機大学) 敷地面積: 34,197m²

調査年	緑被地		樹木被覆地		草地		農地		屋上緑化	
	面積(m ²)	比率(%)								
H21	25,779	75.4	0	0.0	25,779	75.4	0	0.0	0	0.0
H29	5,901	17.3	3,798	11.1	247	0.7	0	0.0	1,856	5.5
増減	-19,878	-58.1	3,798	11.1	-25,532	-74.7	0	0.0	1,856	5.5

集合住宅地

(新田地区) 敷地面積: 124,128m²

調査年	緑被地		樹木被覆地		草地		農地		屋上緑化	
	面積(m ²)	比率(%)								
H21	19,633	15.8	2,998	2.4	13,593	10.9	0	0.0	3,042	2.5
H29	39,990	32.2	29,692	23.9	4,089	3.3	0	0.0	6,209	5.0
増減	20,357	16.4	26,694	21.5	-9,504	-7.6	0	0.0	3,167	2.6

戸建住宅地

(扇一丁目) 敷地面積: 10,571m²

調査年	緑被地		樹木被覆地		草地		農地		屋上緑化	
	面積(m ²)	比率(%)								
H21	9,266	87.7	1,922	18.2	1,038	9.8	6,306	59.7	0	0.0
H29	505	4.8	280	2.7	225	2.1	0	0.0	0	0.0
増減	-8,761	-82.9	-1,642	-15.5	-813	-7.7	-6,306	-59.7	0	0.0

※敷地面積は、今回の緑被等集計のために独自で抽出した面積である。



写真 5-4 学校施設(東京電機大学)

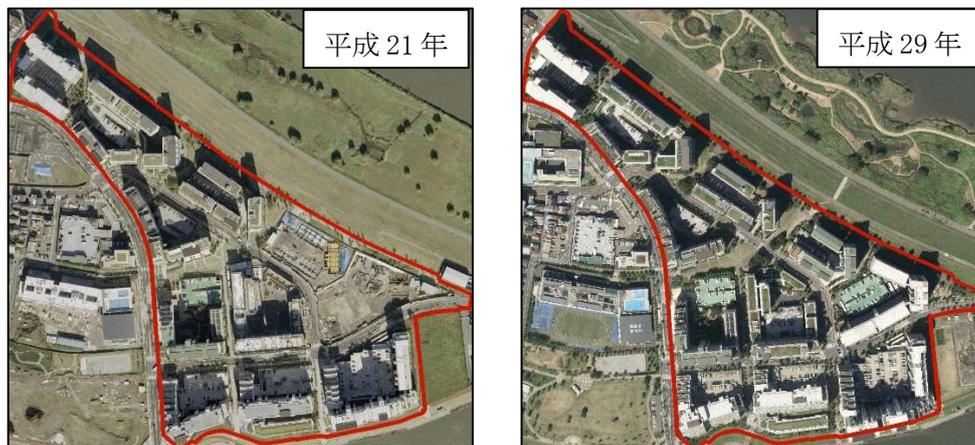


写真 5-5 集合住宅地(新田地区)



写真 5-6 戸建住宅地(扇一丁目)

5.1.10 屋上緑化

区内にある屋上緑化のうち、50 m²以上の屋上緑化について、規模別および民有地・公有地別に整理した結果を表 5-23 に、経年変化を表 5-24 に示す。

規模別でみると、50 m²未満の小規模な屋上緑化面積の合計が区全体の 27.0%で最も多かった。

屋上緑化面積の合計を公有地・民有地で比較すると、民有地は公有地の約4倍であった。今後は公有地内の施設においても、建替えなどの機会に、より積極的に屋上緑化を推進していく必要がある。

表 5-23 屋上緑化規模別の箇所数と面積

種別		規模						合計	割合 (%)
		50㎡未満	50～100㎡	101～200㎡	201～500㎡	501～1000㎡	1001㎡以上		
公有地	面積 (㎡)	745	1,145	2,330	5,317	3,985	1,169	14,691	18.4
	箇所数	-	15	16	18	6	1	56	-
民有地	面積 (㎡)	20,794	6,807	5,364	6,278	9,484	16,358	65,085	81.6
	箇所数	-	100	38	18	13	8	177	-
区全体	面積 (㎡)	21,539	7,952	7,694	11,595	13,469	17,527	79,776	100.0
	割合 (%)	27.0	10.0	9.6	14.5	16.9	22.0	100.0	-
	箇所数	-	115	54	36	19	9	233	-

※50㎡未満については、箇所数を集計していない

※UR住宅は民有地として集計

屋上緑化面積の合計を前回調査と比較すると、区全体では 46,526 m²の増加となり、前回の 2 倍以上の数値となった。公有地・民有地別で見ると、公有地が約 4 倍、民有地も 2 倍以上増加していた。公共施設の建て替えや大規模マンションの新設で屋上緑化が設置されたことが大きな要因と考えられる。

表 5-24 屋上緑化の経年変化

種別	面積 (㎡)		
	H21	H29	増減
公有地	3,696	14,691	10,995
民有地	29,554	65,085	35,531
区全体	33,250	79,776	46,526

5. 調査結果

屋上緑化の事例として、公有地のみやぎ水再生センター(1,168 m²)と千住双葉小学校(696 m²)、民有地の東京電機大学(1,839 m²)とUR フレール西新井中央公園(2,407 m²)をそれぞれ写真 5-7～写真 5-10 に示す。

地上緑化と同様に屋上緑化が増えることにより、ヒートアイランド現象の緩和などが期待される。



写真 5-7 みやぎ水再生センター



写真 5-8 千住双葉小学校



写真 5-9 東京電機大学



写真 5-10 UR フレール西新井中央公園